申請日 ： 2021(令和３）年 8 月 30 日

獨協医科大学長　殿

大学間 部局間 国際交流協定（締結・更新）計画申請書

相手先機関名	日本語名： 国立フィリピン大学マニラ校
	英 語 名： University of the Philippines Manila
	所 在 地 ： 8th Floor, Philippine General Hospital, Taft Avenue, Manila, Republic of the Philippines
2 協定の区分 （※該当に〇印）	締 結 ・ 部局間から大学間へ変更 ・ 更 新
3 協定希望期間 （※更新時･過去の協定期間）	2021（令和 3）年 月 日～2024（令和 6）年 月 日（3 年間） （※ 2016（平成 28）年 6 月 21 日 ～2019（令和元）年 6 月 20 日（3 年間）
4 相手先機関の概要	（１）設立・設置年 1908 年 （２）管轄部門 （３）相手先機関の規模 8 学部・学生数約 5,000 名 （学部・診療科・病床等の数） （学生・教職員等の数） （４）国立（公立）・ 私立の区分 （５）日本における他の協定校 （６）その他
5 協定締結の目的、必要性及び効果 （大学間で締結する場合、その必要性について付記願います）	これまで例年実施しているフィリピン共和国での本学医学部及び看護学部海外研修の更なる充実、併せて、本学と国立フィリピン大学マニラ校（UPM）教官・学生の学術交流の更なる推進及び同国における日本住血吸虫症等の感染症対策に関する継続的共同研究を行っていくためにも UPM との学術交流協定を更新することをご勘案戴ければと思います。
6 交 流 計 画	下記『過去の交流実績』に記載した様な学術交流を更に推進していきたいと考えています。

7　過去の交流実績 （更新の場合は、交流協定締結後の実績） 【学生交流】 【研究者交流】 【共同研究】	2010 年の締結以来、本学医学部海外研修では約 90 名、看護学部の海外研修では 50 名程がUPMで研修しております。医学部海外研修におけるフィリピン側指導者の本学への招聘交流事業等の実績もあります（学内だより No. 549 p. 13）。併せて、UPM教官には本学の院内感染防止対策講習会、日本寄生虫学会大会、日本-フィリピン住血吸虫症対策に関する共同研究と多くの学術交流を積み重ねているところです。 また、UPM医学部学生・大学院生の学位審査において本学教員が副査として参画している実績もあります（学内だより No. 560 pp. 20-21）。 一方、NHKテレビ番組において感染症対策における日比協力についての番組に本学教員とUPM学生が出演も致しました。	
8　協定締結に対する相手先機関の対応状況 （締結の交渉経過及びその他参考となる事項）	本学看護学部フィリピン研修を担当されているUPM看護学部の Josephine Cariaso 助教授 （Head Continuing Education and Community Extension Service Program）、Luz Barbara P. Dones准教授（Office of International Linkages）、Efrelyn A. Iellamo助教授（Chairperson, Faculty-Students Relations Committee）と交流協定更新の交渉を行っております。	
9　協定書の署名者名 （役職及び氏名）	本　　学 ： 学長　吉田　謙一郎	
	相手先機関 ： Chancellor, Carmencita D. Padilla	
10　相手先機関の対応者 （責任者）	所 属・ 職 ： 看護学部・助教授	
	氏　　名 ： Josephine Cariaso	
	e-mail ： jecariaso@up.edu.ph	
	電話番号 ：	
11　本学の協定申請者 （所属長及び担当責任者）	所属名	医学部海外研修委員会
	所属長名 〈職・氏名〉	委員長　千種　雄一　（千種）
	担当者名 〈職・氏名〉	国際交流支援室：小林　繁晴　（小林）

注１）新規締結の場合、相手先機関の施設概要が分かるパンフレット等を添付する。

注２）部局間から大学間へ変更又は更新の場合は，既に締結している協定書（本協定）のほか特定分野における協定書（附属文書）を添付すること（MOAも同様の取扱いとする）。

＊本申請書は、国際協力支援センター・国際交流支援室へ提出願います。